

「 微笑みを忘れた人にー 」

レビ記 第24章17節～20節  
マタイによる福音書 第5章38節～42節

説教 塩谷直也牧師

ある高速道路で、渋滞したサービスエリアの入り口で無理に割り込みをされたドライバーが、わざわざその車を追いかけ、割り込んだ車のタイヤに穴を開けたという事件がありました。私たちは、人にいやなことをされたら、同じことを仕返しても気が済まないのです。報復というものは拡大していくものです。

「目には目を、歯には歯を」というのは、拡大報復に歯止めをかける律法でした。イエス様は、この律法を土台にして語られました。損害を受けたら損失分だけ取り戻す、という常識を踏まえて、イエス様は三つの暴力について話をされました。日常での理不尽な暴力、差し押さえのような法的暴力、占領下における軍事的暴力です。このような暴力を受けた時、私たちはどう行動するのでしょうか。その行動を一枚の絵に描いてみると、仕返しをする絵や、他の人と連帯して抵抗する絵を描くのでしょうか。

私は小学生の時、絵が得意でした。4年生の時、図工の先生は画家で、自分にしか描けない独創的な絵を自由に描くように指導してくれました。イエス様は、独創的な絵を描かれました。ぶたれたのに逃げもしない絵、下着を獲られたのに上着まで与えてしまう絵、1ミリオン行けと言われたらその二倍も行ってしまふ絵です。イエス様は、誰でも描くような絵ではなくて、他の誰にも描けない絵を描かれたのです。

イエス様の絵は、従順に相手に従うような絵ではありません。挑戦する絵です。イエス様の独創的な絵、それは、理不尽な要求をする相手に対して、独創的な抵抗をするということです。しかも、相手に対して優位に立つ絵です。『わたしはあなたに支配されない』とつきつけます。イエス様の戦い方は、試合には負けるけども、相手よりも優位に立つ戦い方です。

大学の2部(夜間)で教えていた時、一人一人の学生に微笑みながら出席票を配りました。しかし学生の中に、帽子をかぶって耳にイヤホンをしたまま、挨拶も返さずに受け取る学生がいました。1年が終わって、最後の期末テストの欄外にその学生が一言、『先生、いつも微笑んで私に出席票を渡してくれましたね』と書いてくれました。見ていないと思っていた学生が、一番見ていて、毎回、私の微笑みを確認していたのです。

『もしあなたが、誰かに期待した微笑みが得られなかったら、不愉快になるかわりに、あな

たの方から微笑みかけてごらん下さい。実際、微笑みを忘れた人ほど、あなたからのそれを必要としている人はいないのだから』という作者不詳の詩があります。微笑むことができない人が、微笑みを思い出すことができるまで、その人に微笑んであげたら良いと言うのです。あなたが一緒に歩いてあげるのを、その人は待っているのかも知れないのです。

マザー・テレサの言葉に『あなたが百人の人に微笑めば、百人の心がなごみます。あなたが百人の人の手を握れば、百人の人が心のぬくもりを感じます。』というのがあります。微笑みと握手を重ねたところに意味があります。微笑みは、握手のようなものです。握手は一人にひとつずつ丁寧に手渡しするものです。微笑みもまた一人一人に丁寧に向けなければ伝わりません。帽子をかぶった学生に向けた微笑みは、彼にだけに向けた微笑みだったので伝わりました。

イエス様は、不法な裁判により、理不尽な暴力によって処刑されました。そこから逃げ出すこともできました。しかしイエス様は、他の誰にも描けないような絵を描かれました。それが十字架です。完全な敗北です。しかしこの絵は、多くの人の心に十字架の影を残し、その心を占領する勝利の絵でした。教会にある十字架は、私たちに語りかけます。単調な人まねの報復はやめて、自由な、独創的な戦いをしなさい、と。世界は皆さんの登場を待っています。皆さんの微笑みに期待しています。いたる所で資源が枯渇しているのではなく、この世界では微笑みが枯渇しているのです。

どんなに長い夜にもまた日が昇るということを経験している人から微笑みは出てきます。闇の向こうに光りがある、という体験がある人が微笑むのです。私たちは無力感と痛みの中で礼拝に集います。そこで目を上げる時、悲しみをご存知のイエス様が、朝日の中で私たちに微笑みを向けて下さいます。私たちこそ、礼拝を通して、何よりもイエス様からの微笑みを受け続けなければなりません。この世界で痛み、傷つき、微笑むことを忘れてしまうからです。だから、毎週毎週、微笑んでいただかなければならないのです。イエス様の微笑みを一杯に受けた人だけが、この世界に対して微笑むことができるようになるのです。

(記 岡村 恒)